

ひ

表現と鑑賞通し 人つくる

Keyword : through (通し), 人間形成, みる・かく・つくる



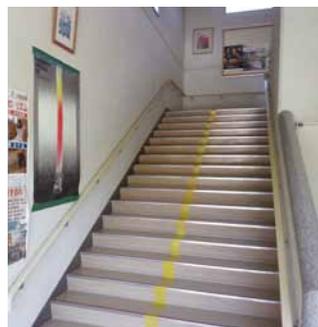
私の美術教育への思いの丈を詠み込み“表現と鑑賞通し 人つくる”としました。これ以上でもこれ以下でもありません。

美術教育で最も大切なことは一人ひとりの子どもたちが“表現”と“鑑賞”に一生懸命取り組み、その過程で、感じる力(Heart), 考える力(Head), みる・かく・つくる力(Hand)を錬磨することです。この3つの力は脳に依拠する力でありこれらの活性はよりよい脳形成につながるはず(としかいまは言いようがありません)だからです。

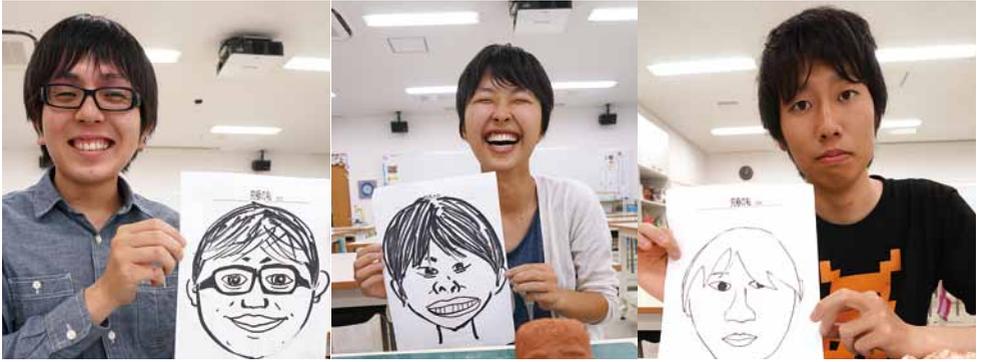
わけでも“みる”ことは大事な営みと私はとらえています。きちんと“みる”ことができなければかいたりつくったりすることなどできないはずだからです。なお“みる”とは視覚のみをさしません。“眼瞼耳視”との先人の言葉もあります。持てる感覚総動員でみてこそ“みる”ことができるのではないのでしょうか。みる力は世の中をきちんとみる力に転化することも期待されます。学校等における鑑賞の指導の意味はここにこそあると私は考えています。



完成したら自分お気に入りの場所に即展示(保育士手作り展示板/坂保育所)みんなで“みる”

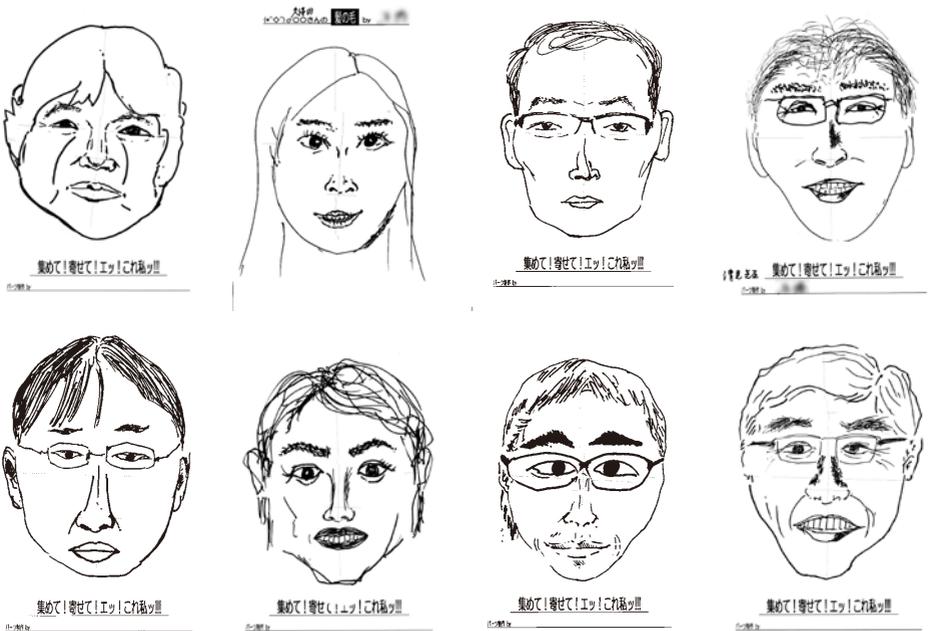


坂町立坂保育所の階段の側面活用



上掲の写真，順次，モデルになり他の2人は，目と眉，鼻，口，髪，顔の輪郭などパーツのそれぞれを60秒間をかきます。全部がかけたら“福笑い”よろしくモデル（自分）自身が配置し自画像（？）にします。あまりのできればえに…

でも完成までのワイワイガヤガヤでコミュニケーションが発生します。また，パーツを超短時間でかく設定は「うまくかかねば」という思いからは解放されるようです。本学の専攻科生，終始，にこやかに表現していました。この題材のヒント，



実は，土曜日夕刻のゲームバラエティー「伝えてピカッチ（NHK）」です。上の8枚は私の仲間達（大学教員や学芸員）と教材研究（おあそび？）的に取り組んだ結果です。モデルのパーツを数人で分担描画（各60秒），パーツ完成後，配置（福笑い）はモデル正面着席者が担当しました。あやしい仕上がりに大騒ぎでした。